

「いろいろな楽しさを行き来する」

5歳児のごっこ遊びでは、必ずしも自分が何かになりきって遊ぶわけではありません。作ったものをイメージの中で動かしたり、必要になったものを作りに出かけたり、イメージとイメージの外を行き来しながら遊ぶ姿が見られます。Hさんの指人形にかかわったごっこ遊びの姿を紹介したいと思います。

9月「指人形を作る」

友達が人形を作っているのを見て、教師と一緒に指人形を作る。洋服の色、髪の毛の色を決めたり、顔をペンで描いたりしながら自分だけの人形を作る。友達の作る様子を見て「緑色にしたんだね」など呟きながら。人形が完成すると、次は家を作り始める。部屋を作って「ここはトイレ」など一つ一つ部屋割りを決めながらテーブル、冷蔵庫など家具や家電を作り加える。



「作る」楽しさ

魅力的な材料

10月「指人形の家でやりとりする」

作った指人形を自分たちで作った家の中で動かす。自分は人形を動かしながら「学校行ってきまーす」など人形の声を当てる。同じイメージを共有するIさんとやりとりを繰り返す。



「演じる」楽しさ

同じイメージ
で遊ぶ友達

11月「新しい家を作り加える」

たくさん遊んだ指人形の家を一度片付けたあと、新しく杵積み木を使って指人形の家を作る。次々と積み木を運び込んで、ダイナミックに場を作る。「ここは美容院」「遊ぶところがないね」など、場が大きくなったことで、町のようなイメージになり、Iさんと一緒に相談しながら作り加える。作るのがひと段落するとごっこを再開する。



「演じる」楽しさ

「作り変える」
楽しさ

ダイナミック
に遊べる空間

Hさんは2学期の間、指人形の遊びを続けました。指人形を動かすだけではなく、イメージの外と中を行き来し、作る楽しさを味わったり、友達と人形を使って演じたり、いろいろな楽しさに向かっていきましたが、Hさんのイメージは一貫していました。それを支えたのは「魅力的な材料」「同じイメージで遊ぶ友達」「ダイナミックに遊べる空間」などの環境でした。楽しさに変化を細やかに見取りながら、環境を構成し支えていくことが大切だと考えます。

(岸 拓実)